

新商品発表会でトークセッション

パレット調達・管理業務で意見交換

五十鈴グループ（代表・鈴木勝CEO）は7月30日、自社開発した自動車部品メーカー向けパレット（容器）の調達・管理業務をDX化するシステム「アイパス（iPas）」と「エヌシステム」の新商品発表会を名古屋市内で開催した。ティア1（大手部品会社・一次業者）の自動車部品メーカーや素材メーカーから約50人が参加。両システムの概要説明の後、実際にシステムを導入・運営している企業担当者らのトークセッションも行われた。

システム導入の効果を実証

専門的担当者への依存、さまざまな部署を介すること、起こる情報の停滞や手戻り、リードタイムの長時間化などの問題があったと指摘。1年半ほど前にアイパスの初期バージョンを導入し、6工場で運営する中で現場からのニーズをもとに機



見解を語る吉貴フタバ産業特別顧問

能を追加してきた。足元では「パレットの

仕様を決定する各工場部門の情報が一元管理できるのは大きい。値決めなど調達情報の進ちよくが

一つの画面で追えるようになり業務はかなり効率化できている」と、導入効果について語った。

パレットの出荷管理について、コストをかけて人海戦術で出荷と製造の整合性を取っていた課題を解決するため、パレットのリアルタイム検知システム「エヌシステム」を導入した自動車部品メーカーでは「生産管理というカテゴリにおいてパレットの搬出入一括管理で工数が削減できる。



参加者を前に語る鈴木CEO

パレットの稼働状況でモノの流れを把握できるのは大きなメリット」と強調した。その上で「今後は製造部門とのヒモ付けで物流全体の流れを把握できるようにすれば、さ

自動車部品SCのDX課題も話題に

参加者は、今後の自動車部品サプライチェーンにおけるDX化の推進についても意見交換した。

木村氏は「専門的な仕事をどれだけ少なくできるかが課題」としたうえで「集荷作業員の負荷、作業ダイヤや配車計画の作成など顧客から書類をもらって自動的に算出できるような仕組みを検討している」ことを明らかにした。

・出荷情報を出すタイミングの検証やティア2への発注などを考えていく必要がある」と、自動車メーカーと部品メーカー双方の立場からの見解を語った。

合わせ、パレット形状にら次にどのようなサービスが可能か、現場と一緒に実現したい」とした。

鈴木社長は「当社グループは長期ビジョンとして『未来社会づくりへの貢献』を掲げている。アイパスとエヌシステムのターゲット分野はティア1にとつてはニッチな課題領域だと思いが、さまざまな追加課題を一つずつ解決していくことが自動車部品の物流全体のDX化につながっていくと

のサービスにつなげていく。現場での課題をリアルに認識して解決策を講じられるのが当社グループの強み。スピード感を持って課題解決ソリューションの開発に注力し、新商品・機能をどんどん展開していきたい」と参加者らを前に語った。

